



AuditPlus

リリースノート

バージョン:	2.1.6
作成日:	1/6/2017
互換性:	GeneXus X Ev2 U4 以降 GeneXus X Ev3 U3 以降



目次

新機能	4
AuditPlus 2.1.0	4
• AuditPlus の既定のプロパティ	4
• DB2 Universal Database のサポート	6
• DB2 for iSeries のサポート	6
• Oracle のサポート	6
• Save triggers in output file	7
• AuditPlus procedures name syntax	7
• データベースから AuditPlus オブジェクトを削除	8
修正済みの問題	9
AuditPlus 2.1.0	9
• 並行トランザクション	9
• 設定の右クリック	9
• Web バックエンドでのサブレベルのリンクの復元	9
• キャンセル時のメッセージの誤り	9
AuditPlus 2.1.1	10
• ユーザーインターフェースのタイプミスの修正	10
AuditPlus 2.1.2	10
• GeneXus X Evolution 3 Upgrade 9 の互換性問題の修正	10



AuditPlus 2.1.3	10
・ MySQL での Insert トリガー	10
AuditPlus 2.1.4	10
・ WorkWithPlus のカスタム設定のエラー	10
・ プライベートモジュール内のトランザクション監査時の問題	11
・ データが空の場合のダッシュボードのエラー	11
AuditPlus 2.1.5	11
・ [AuditRecordOperation] のコンフリクトの問題	11
AuditPlus 2.16	11
・ Oracle での AuditPlus テーブルの初期化エラー	11

新機能

AuditPlus 2.1.0

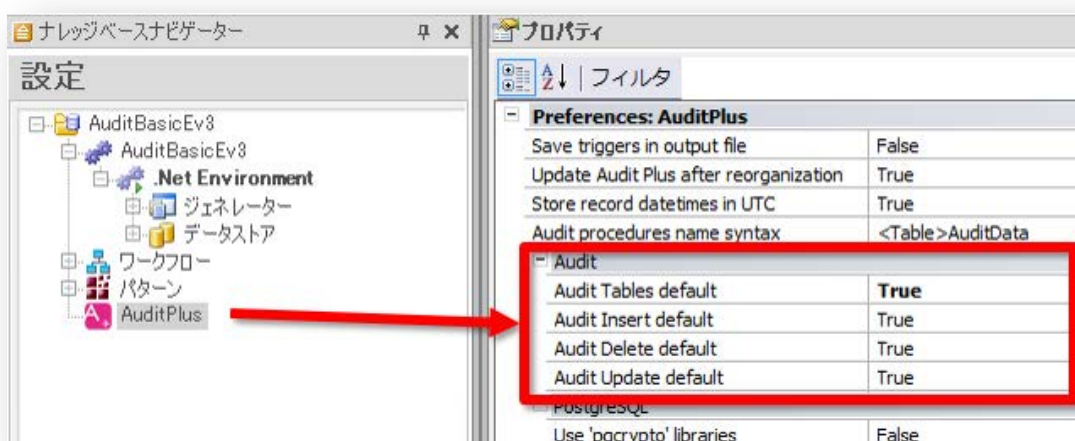
• AuditPlus の既定のプロパティ

このバージョンのAuditPlusでは、すべてのナレッジベースのトランザクションに対してトリガー生成プロセスの既定の動作を設定できる、新しいプロパティのセットを提供します。

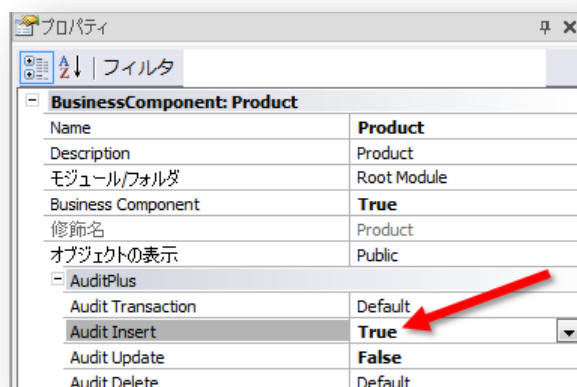
次のプロパティが利用可能です：

- **Audit Tables default:** すべてのトランザクションに対するAuditプロパティの既定値を定義します。[False]に設定すると、各トランザクションで個別に指定しない限り、トリガーは生成されません。
- **Audit Insert default:** Audit Insert プロパティの既定値を定義します。
- **Audit Delete default:** Audit Delete プロパティの既定値を定義します。
- **Audit Update default:** Audit Update プロパティの既定値を定義します。

これらの機能は、GeneXusの[設定]の[AuditPlus]で利用可能です。



既定の動作はトランザクションのプロパティを使用することで上書きすることができます。



「ツール-> AuditPlus -> AuditPlusを有効にする」メニューオプションを使用して監査を有効にする際に、既定の動作を初期化することができます。



このオプションを選択すると、ナレッジベースのすべてのトランザクションに対して監査が適用されます。このプロセスは、設定ダイアログを閉じるとすぐに開始します。

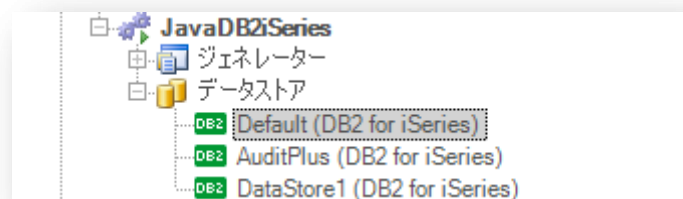
• DB2 Universal Database のサポート

AuditPlus は DB2 Universal Database DBMS をサポートするようになりました。



• DB2 for iSeries のサポート

AuditPlus は DB2 for iSeries DBMS をサポートするようになりました。



• Oracle のサポート

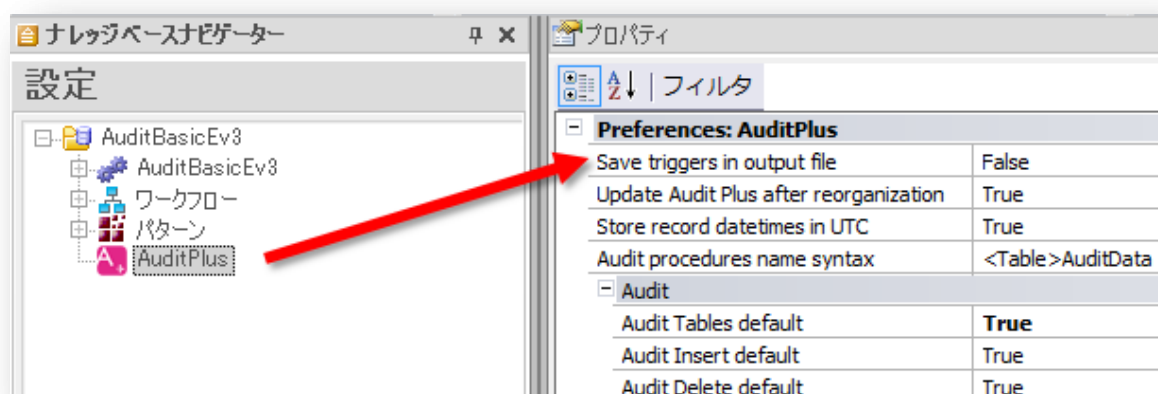
AuditPlus は Oracle DBMS をサポートするようになりました。



• Save triggers in output file

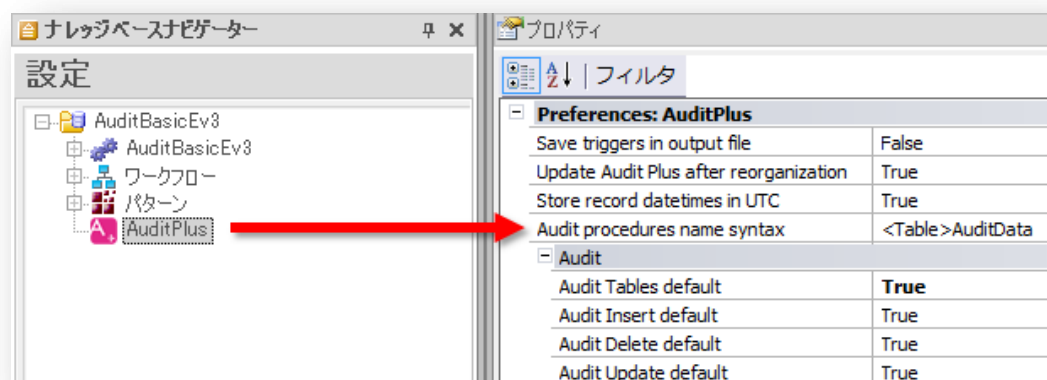
このプロパティを有効にすると、AuditPlus は生成された SQL 文をテキストファイルに保存します。このテキストファイルは、手動での影響分析に使用でき、後でスクリプトを作成するために使用することもできます。このファイルはWebフォルダ内に作成され、「AuditPlusTriggers.sql」という名前で保存されます。

この機能を有効にするには、AuditPlus 設定で [Save triggers in output file] プロパティを [True] にする必要があります。



• AuditPlus procedures name syntax

この機能では、各トランザクション用に AuditPlus プロシージャを作成するために使用する名前の構文を定義することができます。このプロパティは AuditPlus 設定で設定可能です。



既定では、監査プロシージャは次の構文を使用して命名されます：“<Table>AuditData”
これは、“Product”という名前のトランザクションの場合、“ProductAuditData”という名前の
プロシージャが作成されることを意味しています。

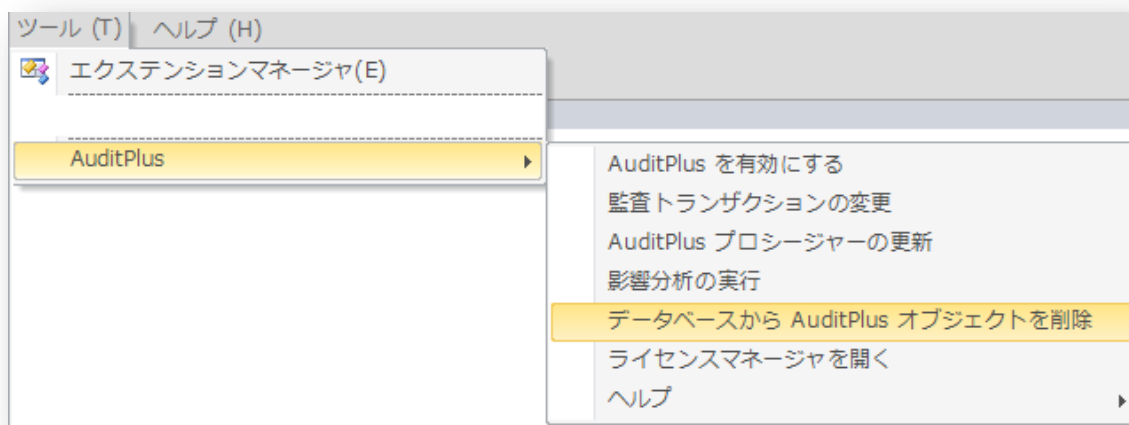
タグ <Table> は必須ですが、どこでも配置することができます。

例：“Audit<Table>Data”

また、この構文はGeneXusの命名規則と互換性を持つ必要があります。

● データベースから AuditPlus オブジェクトを削除

この機能では、データベースから生成された AuditPlus オブジェクトを削除することができます。
使用している DBMS に応じて、これらのオブジェクトにはトリガー、関数、およびデータスト
アが含まれています。





修正済みの問題

AuditPlus 2.1.0

- 並行トランザクション

並行トランザクションがあるトランザクションのサブレベルで、AuditPlus を適用する際に発生していたエラーが修正されました。

- 設定の右クリック

GeneXus の「設定」で AuditPlus のアイコンを右クリックすると、空のポップアップメニューが表示されるという問題が解決しました。

- Web バックエンドでのサブレベルのリンクの復元

レコードのサブレベル内で親の AuditRecord へのリンクが復元され、AuditRecord サブレベルから親レコードへの移動が可能になりました。

- キャンセル時のメッセージの誤り

「AuditPlus を有効にする」ダイアログで「キャンセル」ボタンを押した後に、誤って表示されていた「成功」というメッセージを削除しました。



AuditPlus 2.1.1

- **ユーザーインターフェースのタイプミスの修正**

プロパティのタイプミスを修正しました。

AuditPlus 2.1.2

- **GeneXus X Evolution 3 Upgrade 9 の互換性問題の修正**

GeneXus X Evolution 3 Upgrade 9 のインストール中に設定を阻害していた問題が修正されました。

AuditPlus 2.1.3

- **MySQL での Insert トリガー**

Insert (追加)トリガーを呼び出す際に検証に失敗していた問題が解決しました。

AuditPlus 2.1.4

- **WorkWithPlus のカスタム設定のエラー**

AuditPlus でバックエンドとして WorkWithPlus の使用を有効にしている場合、エラーが表示される問題が解決しました。WorkWithPlus 設定でいくつかのプロパティを未設定のままにしておくと、このエラーが発生していました。



- **プライベートモジュール内のトランザクション監査時の問題**

プライベートモジュール内のトランザクションを監査しようとする際に発生していた問題が解決しました。

- **データが空の場合のダッシュボードのエラー**

監査テーブルにデータがない場合に AuditPlus でエラーが表示されるという問題が解決しました。

AuditPlus 2.1.5

- **[AuditRecordOperation] のコンフリクトの問題**

WorkWithPlusAuditRecord に Standard Action (Export) を追加するとエラーが表示されるという問題が解決しました。[AuditRecordOperationType]をドメイン [AuditRecordOperation] に名称変更することで、名称のコンフリクトが解消されました。

AuditPlus 2.16

- **Oracle での AuditPlus テーブルの初期化エラー**

Oracle で AuditPlus テーブルの初期化を行う際にエラーが発生するという問題が解決しました。